

即ち各臓器抽出液中で菌培養は可能である。がその發育は対照にやや劣り殊に、第2週以後の増加が少い。

各臓器の間では、結核菌發育は肺に於いて最も著明、腎、脾に於いて之に次ぎ、脳、肝に於いて最も悪い様である。この特異親和性は、Von, Sarnowic の言う如き單に P.H. の差違のみとは断じがたい。

第2表

	Conteben	PAS	o-Aminophenol	Usninsaures Na	Streptomycin
Niere	≤ 4万	10—20万	40万	20—40万	40—80万
Lunge	4万	5—10万	20—40万	20万	80万
Leber	≤ 4万	10—20万	20—40万	10—20万	80万
Hirn	< 4万	20—40万	20—40万	10万	40万
Serum	4万	40万	40—80万	40万	≥ 80万

以上の成績は各種類に就き数回の実験結果を綜合したものであるが、何れの場合に於いても対照として同時に実施した同一動物の10%血清加キルヒナー培地内に於ける同一被検物質の結核菌發育阻止力よりも若干の阻止力低下を認めた。

被検物質別に見ると Streptomycin, Conteben は僅に低下し、o-Aminophenol 之に次ぎ、Usninsaures Na, 及び PAS では阻止力低下が稍著しい。臓器別では著明な臓器特異性を認めなかつた。が肺抽出液中に於いて Conteben, Streptomycin に比して殊に PAS の阻止力低下の度が他の臓器抽出液中におけるよりも著しい感じをうける。

抗結核菌性物質を投与した動物の臓器水抽出液を 加へた培地中に於ける結核菌の發育

志 保 田 明

著者は抗結核菌性物質を投与した場合にもその体内分布に臓器による差違特に定量的の差違でなく、抗菌力発現に差違があるものかどうかを究明しやうとして既に前述発表した臓器水抽出液加培地を應用し抗結核菌性物質を動物に投与した後一定時間にその動物の臓器抽出液を製し、之を加えた培地内に於ける結核菌發育を検討し、生体臓器内に於ける抗菌力を試験管内に於いて追求した。

第1表 Streptomycin

臓器含有量 時間	10 %			5 %		
	4時間目	48時間目	対 照	4時間目	48時間目	対 照
Hirn	—	+	+	—	+	+
Lunge	++	++	++	++	++	++
Leber	—	+	+	—	+	+
Niere	—	++	++	—	++	++
Milz				—	++	++
Serum	++	++	++	++	++	++

第2表 PAS

臓器濃度 時 間 臓 器 別	10 %			5 %		
	4時間	48時間	対 照	4時間	48時間	対 照
Hirn	—	+	+	—	+	+
Lunge	++	++	++	+	++	++
Leber	—	+	+	—	+	+
Niere		++	++	+	++	++
Milz				+	++	++
Serum	++	++	++	++	++	++

第3表 o-Aminophenol

臓器濃度 時 間 臓 器 別	10 %			5 %		
	4時間	48時間	対 照	4時間	48時間	対 照
Hirn		+	+	—	+	+
Lunge	++	++	++	++	++	++
Leber	—	+	+	—	+	+
Niere		++	++	+	+	++
Milz				—	++	+
Serum	+	++	++	+	++	++

即ち St.mycin PAS, o-Aminophenol の3種は per kg 0.1g の静注後4時間にして90%血清中及び5%及10%肺抽出液中に於いて抗菌力全く消失するも、肝及び脳の其の中では何れも発育阻止力を示し、腎液中にては Stmycin のみが抗菌力を示し、脾液中に於いては St. mycin 及び o-Aminophenol が尙抗菌力を示している。注入後48時間になると何れも対照と同様の菌発育を示して居る。